



「わんぱくでもいい。たくましく育てほしい。」
おかげさまで丸大食品は創立 60 周年。

NEWS RELEASE

丸大食品株式会社

本社 / 〒569-8577 大阪府高槻市緑町 21 番 3 号

2019 年 1 月

健常者を対象としたプラズマローゲン摂取の影響を 認知機能テストで確認

丸大食品株式会社(本社:大阪府高槻市、社長:百濟徳男)は臨床試験において、鶏肉由来のプラズマローゲンの摂取が健常者(60 歳以上)の認知機能の検査で、言語記憶力と認知機能速度の数値を上昇させることを確認しました。検査数値の上昇はそれぞれの機能が維持、向上されることを示します。

プラズマローゲンとはリン脂質の一種で、脳神経系に多く含まれていることが知られており、認知機能の維持に重要な役割を果たしていると考えられている物質です。

今回の臨床試験は 50~70 歳の健常な被験者(平均年齢 59.9 歳)75 名を対象として行い、1 日にプラズマローゲンを 1mg 含むソフトカプセルを摂取する群(1mg 摂取群)、0.5mg 含むソフトカプセルを摂取する群(0.5mg 摂取群)、およびプラセボ群の 3 群に分けて、12 週間継続摂取してもらいました。

認知機能の検査には「コグニトラックス」と呼ばれる方法を採用し、7 項目のテスト結果から認知機能に関する 11 のチェック項目の数値を算出しました。その結果、60 歳以上の被験者において言語記憶力の数値がプラズマローゲンを摂取することで上昇し、特に 1mg 摂取群でプラセボ群と比較して統計的に有意な差が認められました。また、認知機能速度の数値においては、0.5mg 摂取群でプラセボ群と比較して有意な上昇が確認できました。

言語記憶力が向上すると、言葉や図形を記憶し思い出す能力を維持する効果が期待できます。また、認知機能速度が向上すると、情報や物事を理解して、応える時間が短くなる効果が期待できます。

今後、この結果を論文化して機能性表示食品の申請に向けたエビデンスにするとともに、2019 年 6 月 14 日より開催される日本抗加齢医学会での発表を予定しています。